

武井たか子の 市議会報告



〒791-8025 松山市衣山2-4-47早瀬ビル2F tel. fax 924-2485 発行……武井多佳子(松山市議会議員)
武井たか子を支える会(生き生き政治ネット) http://www.takei-takako.jp/ e-mail ikiiki@cnc.e-catv.ne.jp 発行……2016年2月 日



t a k e i s c i t y c o u n c i l r e p o r t

早いもので2016年も1カ月が過ぎました。みなさま、どんな思いで新年を迎えられましたか。私は、今年も昨年9月に強行採決された、世界で戦争するための安保法制の廃止に向けて引き続き行動していきたいと思っています。7月には参議院選挙があります。戦争法廃止へ踏み出すチャンスです。そのために『小異を生かして、大同団結する』野党連合の輪を広げ、統一候補の議席獲得に力を注ぎたいと思います。**だれの子どもも戦争に行かせないために。**

一般質問

組み体操によるけがの実態から学校におけるあり方を検証すべきではないか？

大阪府・八尾市立中学校の事件を受けて、松山市の2015年の実態調査を求めました。小学校55校中41校が実施し、その3分の1に当たる12校で児童はけがをしており、男子7名、女子12名の計19名。内5名の女子は骨折、男女合わせて11名が打撲・捻挫。中学校29校中4校が実施し、1校で男子1人が打撲・捻挫。いずれも練習中に事故が起きていました。

これらを検証し、松山市として個人の選択の余地のない全員参加が前提であり、骨折などの危険性を伴う競技であることへの認識を深めること。また、骨折が女子児童である点でも体力的な差に原因がないのかなど、詳細に検証し、是非を再考する必要もあるのではないかと、今後の対応を含めて、見解を問いました。

【答弁】組み体操は、全員参加で取り組むことで、協調性、団結力、達成感を育む教育的意義があると認識している。生徒児童に安全面に注意するよう指導し、性別を含めた体力差への配慮を行っている。本市の現状を検証すると、「ピラミッド」の巨大化や高層化を原因としたものでなく、性別や体力にも十分配慮がなされていた。けがの程度も軽いもので、運動会は参加できた。今後、児童生徒の安全や健康に、特に留意し、安全管理に万全を期すよう努める。

巨大化や高層化がけがの原因でないからいいのではありません。骨折の程度が重い、軽いかかわらず、骨折を起こすリスクのある競技を本人が拒否できない全員参加で行うことにもっと認識を高めるべきです。教師が安全管理に努めるだけで、児童生徒の危険を回避できるとは思えません。今回の実態調査をそれぞれの学校で一度検証し、今後のあり様を再考する必要があると思います。

教育委員は「説明責任」を果たしていない！

松山市教育委員会は2016年度から中学校で使用される歴史教科書に「採択委員会」の評価を取り入れず、「新しい歴史教科書をつくる会」の流れをくむ育鵬社版を初めて採択しました。今回の採択について、経過は説明しますが、**どうして選んだのかという理由**について、具体的な説明は一切行わず、到底教育委員としての職務を全うしているとは思えません。不誠実そのものです。「各委員の視点に立った判断」と言われますが、各委員の視点についてより具体的な説明がなされて、初めて説明責任を果たすと言えるのです。2名の委員の意見表明だけで結論づけ、審議らしい審議を行っていない教科書採択が、独断的といわれても仕方ありません。この点について、改めて説明を求めるとともに、今後説明責任をどう果たすのかについて質問しました。

【答弁】全ての教科書に十分な調査研究を行い、各々の経験と能力を生かし、**各委員の視点に立った判断**にもとづき決定した。教育委員会はどなたでも自由に傍聴できる公開の場で行っており、議事録も公開しているので、説明責任は果たしていると考えます。今後も現在の対応を継続していくことで説明責任を果たしたい。

「各委員の視点に立った判断」が全く具体的に示されていないまま採択されているのは問題だから、質問しているにもかかわらず、結局どうして選んだのか、説明になっていません。教育委員には各々が生かしたというその経験と能力により具体的な形で判断した理由を示す責任があります。松山の教育を語る場における議論とは思えないお粗末さでした。

『怒れる大女子会』—ちゃんと怒って、政治を変えるパワーに—

2015年12月1日、東京ウィメンズ・プラザで開催された「怒れる大女子会」に参加しました。私は1994年から20年間、「議会に女性を送ろう」と活動してきましたが、なかなか実現しません。建て前として男女平等を掲げて、実際の不平等に対して、積極的に改善しなければ、結果は得られません。長きにわたって男性中心で進んできた議会は、それが当たり前になっています。だから、おかしいという意識も高まらず、今日に至っていると思うのです。原発の再稼働、安保法制の強行採決、もう黙ってられない、政治を自分たちの手に取り戻そうという女性たちの動きが「怒れる女子会」です。2014年11月に初開催、全国各地に広がっています。ここ愛媛でも昨年7月と今年1月に開催されました。おかしな現実に対してちゃんと怒ることが変革へのパワーです。「怒れる女子会」開きませんか？



2月議会の日程
2月19日～3月18日
一般質問は3月2・3・4日
ぜひ、傍聴にいらしてください。

「政治力フェ」のご案内
とき…3月12日(土) 午前13時00分～15時
ところ…生き生き政治ネット事務所
「立憲主義をとりもどせ! 参議院選挙」えひめ勝手連2016

学ぶ 全国フェミニスト議員連盟主催 『女性議員パワーアップ集中講座』

日時:2016年1月12日10:00~17:00 場所:衆議院第一議員会館 第2会議室

●福祉政策と住宅問題 講師:稲葉剛さん(つくりい東京ファンド代表理事)、浅海義治さん(世田谷トラストまちづくり)

今、どこの自治体でも空き家対策が必要となっています。世田谷区では、相談窓口を設置し、空き家・空き部屋をNPOなどの活動団体とつなげて、地域で生かす取り組みが始まっていました。また、「地域共生のいえ」では、市民自ら自宅や部屋を提供し、運営サポーターなどのボランティアによる支えで、子ども、高齢者、障がい者の居場所や支援の場、地域交流の場として、新たな地域づくりにつなげていました。住宅政策というと、つい建設という点から見がちですが、このような自宅をまちにひらく、それぞれが持つ資源を分かち合うという柔軟な発想はとても新鮮でした。さらに、昨年5月に起きた川崎・簡易宿泊所火災に見るように、低額年金の高齢者の住宅確保策が必要になっています。また、若者のワーキングプアが進む中、可視化しにくいネットカフェ難民となる若者も存在する今、若者も視野に入れた住宅政策も求められていること。それを担うのが各自治体に設置される「住宅支援協議会」であることもわかり、今後、松山市においても充実強化を求めたいと思います。

●改正派遣法の問題と非正規雇用の実情 講師:渡辺照子さん(派遣向上フォーラム代表)、伊藤みどりさん(働く女性の全国センター)

これは松山市自身が抱える大きな課題です。業務委託、指定管理者制度の導入により、学校給食、保育園をはじめとして、準公務員的働き方の中に、かなりの数の非正規雇用が広がっているようです。労働法制は国の課題ではありますが、社会全体で看過できない時期に来ていると思います。松山市でも実態を調査・把握し、対策すべきです。自治体では、公契約条例によって、生活が保障される雇用の確保に向けて、ルールを明確にすることができます。これまで松山市議会でもこの声は上がっていますが、官制ワーキングプアを増やさないために早急に取り組む必要があると痛感しました。

●共通番号(マイナンバー)制度の課題 講師:原田富弘さん(やぶれっ!住基ネット市民行動)

やはり個人情報保護の観点からの問題、セキュリティの確保など、不安を抱えたままです。大きなリスクを持ちながら、推進する必然性には大いに疑問ですが、動き出したい今、起きる問題を注視し、自治体では財政的な面でのチェックも行わなければならないと思いました。

今回の講座には、全国各地から約60名の女性議員が集まって、共に学びました。どれも重要なテーマですが、松山市に照らし、今後の議会活動で取り上げていきたいと思えます。

視察 一中央区、川崎市の動物愛護行政一

東京都中央区では、「人と動物の調和のとれた共生社会」を掲げています。そのために各地域から動物との共生推進員を幅広く募集し、これまで個人で活動していた市民をネットワーク化していました。飼い主のいない猫を増やさないよう、不妊去勢を行い、適切な餌やりとトイレ掃除を行って地域で見守る活動が10年間継続されていました。その結果、現在ピーク時235頭から81頭へ不妊去勢する猫は減少しているようです。助成する頭数に制限は設けず、金額もオス17,000円、メス20,000円(妊娠している場合25,000円)と財政的支援も充実しています。また、動物愛護団体と協力し、市有施設において年間4~5回譲渡会を開催する、基本的に他市の住民には譲渡せず、譲渡した後も対応する、負傷猫には過度にならない治療を行うため年間上限15万円で推進員さんに任せられるなど、動物との共生社会の名のもと、施策も充実しているなあと実感しました。市民の苦情にも保健所と推進員さんが協力して対応するなど、都心でありながら、きめ細やかに対応されていることに感動しました。

川崎市は動物愛護センターを設置しており、現地を視察しました。施設内は里親を募集する犬と猫でいっぱいでした。敷地内はボランティアさんが洗濯したたくさんの毛布やタオルが干してあり、20名の職員も世話をしながら、業務にあたっていました。介護の必要な老犬もいて、動物の高齢化を目の当たりにしました。殺処分ゼロを掲げているわけではないが、結果的に2014年度、犬はゼロ、猫は17頭になったとのこと。TNR(飼い主のいない猫を手術し、もといた場所に返す)だけでは減少しない、TNR+M(マネジメント)が必要だとのこと。まさに中央区の取り組みですが、人材の育成がポイントになると思いました。もっと来やすい場所にセンターを新設する計画を進めており、そこには殺処分のためのガス室は設けないそうです。

松山市も来年度からやっと飼い主のいない猫の不妊・去勢手術への助成を開始する予定です。年間567頭(2014年度)の猫の殺処分をゼロにするには、職員自ら積極的に地域に足を運び、実態に合った施策を展開しなければならないと思いました。



川崎市動物愛護センター
所長さんとフェミニスト議員連盟視察参加者

??? 質問時間、中核市と比較し下位……これでは議員の責任が果たせない!

本会議での質問は、議員にとって重要な仕事です。ところが、松山市議会は議員一人あたりの質問時間が年間60分、一議会15分と非常に短く、発言が制限されています。全国の中核市では、制限なし、あるいは議員一人あたり年間120分、一議会に30分がほとんど、松山市議会では肝心なところで議会改革が進みません。質問時間の拡大について、議会改革特別委員会の中で、私はかなり粘って他の委員に理解を求めました。残念ながら、賛同を得られませんでした。12月議会では、わずか1分で質問しなければならないという状況になりました。

これまで、議会改革に向けて様々な提案をしてきました。全国的な議会改革の流れも受けて、松山市議会でも費用弁償の廃止、一日一委員会等々、一定の改革は進みました。しかし、この質問時間だけは強く抵抗されます。他の会派は、今でも余っているのだから、「変更しなくてよい」とされます。低きに合わせるなど、合理的な根拠ではありません。議員自ら職責の場を放棄するという空しい議論ですが、引き続き、質問時間を全国並みにするよう、働きかけていきます。

「市議会報告」は、年4回発行しています。ご紹介いただいた方々全員に年2回郵送させていただきます。